

令和5年度 学校評価報告書

小樽市立望洋台小学校
校長 及川 年彦

1 本年度の重点目標

考え、伝え、認め合う子どもの育成
～「やさしさ」と「つながり」～
○「やさしさ」:相手の視点に立って、気持ちを考えることができる子ども
○「つながり」:他者と意見や考えを交わし、協力しながら目標の達成や課題の解決を目指す子ども

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査及び標準学力検査の平均正答率全国平均以上または全国平均と同等(±2)	B	全国学力・学習状況調査では国語・算数の正答率が全国の前年より-1.2、-2.5であり、同等であった。市内の前年と比較すると+1、+2であった。標準学力検査は3年生の国語・算数が全国平均より、+2、+1.1であった。5年生の国語・算数が全国平均より、-2.6、-7.6であり、全国平均以下であった。	◎
	特別支援教育の充実	特別支援教育に関する校内研修年2回以上実施	A	4月に本校特別支援教育CNによるユニバーサルデザインについて校内研修を行い、12月には医療機関から作業療法士の方を講師を招き、「発達に気になるお子さんへの支援について」と題して講演会を行った。	◎
	国際理解教育の充実	中学校と連携し、英検を受験する児童延べ15名以上	B	計3回の英検に延べ12名が受験した。	◎
	理数教育の充実	「算数の勉強が楽しい・よくわかる」と回答する児童85%以上	B	児童アンケート「よくわかる」の肯定的回答が86.2%、「楽しい」の肯定的評価が76.6%となり、計81.4%となった。	◎
	情報教育の充実	「授業等で端末を活用している」と回答する教員100%	C	教職員アンケート「授業等でChromebookを効果的に活用している」で肯定的回答が78.6%であった。	◎
	キャリア教育の充実	「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば持っている」と回答する児童80%以上	A	児童アンケートで「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば持っている」という回答が83.8%であった。	◎
改善方策	○マストアイテムとした1人1台端末を活用し、子ども主体の学びを位置付けた授業改善をより一層進めていく。 ○教師の指導力向上を目指し、「仮説検証型」から「課題解決型」の校内研究へと転換する。 ○端末の利活用により、授業のねらいが達成されているかどうかを検証していく。				
学校関係者評価委員による意見	・授業のねらいを達成させるために効果的な端末活用をすべしである。また、端末を使うことが目的とならず、アイテムとして活用できるとよい。 ・1人1台端末を活用した情報発信(学級通信)はよいが、発信する目的(時間)を教員も守った方がよい。 ・先生方の校内研究によって今までと変わった授業(子ども主体の授業)が楽しみである。その授業をぜひ保護者や地域に発信してほしい。 ・キャリア教育では、もっと外部講師の方による講話などを行った方がよい。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	「自分によいところがある・どちらかといえばある」と回答する児童80%以上	B	児童アンケートで「自分によいところがある・どちらかといえばある」という回答が78.3%であった。	◎
	ふるさと教育の充実	外部講師を活用したふるさと教育年1回以上実施	A	藤間流の方を講師として「潮音頭」を練習したり、学芸員の方をお招きして学校周辺の生き物について学習したりと各学年で実施した。	◎
	読書活動の推進	「本を読むのが好き・どちらかといえば好き」と回答する児童70%以上	A	児童アンケートで「本を読むのが好き・どちらかといえば好き」という回答が72.1%であった。	◎
	体験活動の推進	社会福祉体験、町内会(PTA活動)、児童会と中学校生徒会との交流などを通した社会貢献活動を年1回以上実施	A	町内会主催の花壇づくりや花壇清掃に6月と10月と2回参加した。また、望洋台町会ロゴマークデザインに学校で取り組み、優秀賞をいただいた。	◎
	コミュニケーション能力の育成	「子どもたちが自分の考えや思いを伝える場を設定している・どちらかといえば設定している」と回答する教員100%	A	教員自己評価「授業の中で子ども同士が対話をする場面を設定している」で肯定的回答が100%だった。	○
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「仲間はずれやいじめをしないで、楽しく生活している・どちらかといえばしている」と回答する児童85%以上	A	児童アンケートで「仲間はずれやいじめをしないで、楽しく生活している・どちらかといえばしている」という回答が98.2%であった。	◎
改善方策	○全ての児童を対象とした「発達支持的生徒指導(「全ての教師による個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える指導)」の充実を目指す。 ○心を耕す「道徳科」の授業公開を通して、指導力向上を目指す。				
学校関係者評価委員による意見	・学校と家庭が連携して、子どもたちの自己肯定感を高めていくことも必要である。また、先生方が子どもたちのメンタルケアや温かい声かけの研修を受けることも大事である。 ・「体験活動の推進」では、回数だけではなく、様々な活動を行った方がよい。また、これからも町内会との連携を図った取組を充実させてほしい。 ・「コミュニケーション能力の育成」は、数値目標は達成されているが、児童アンケートでは肯定的評価が70.1%と低く、育成が十分図られているとはいえない。次年度も継続して指導していくべきである。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	シャトルラン15回+(5回×(学年-1))の達成率100%	B	各学年の平均値が15回+(5回×(学年-1))を上回ったのは、5つの学年であった。	◎
		食育の推進	栄養教諭等外部講師による食育の授業を年1回以上実施	A	1,2年生で栄養教諭、3年生で株式会社明治による食育の授業を実施した。	◎
		健康教育の充実	外部講師による薬物乱用防止教室年1回実施	A	5,6年生で警察署職員による薬物乱用防止教室を実施した。	◎
改善方針		<p>○運動量の確保や1人1台端末を活用した体育科の授業改善に取り組む。</p> <p>○子ども達一人一人に運動の目的や目標を明確にさせて、体力向上に取り組ませる。</p> <p>○日常的な運動機会の場を意図的・計画的に設定する。</p>				
学校関係者評価委員による意見		<p>・運動が苦手な子どもにとっても、個人で目標を設定し、体力向上を図るのは良い取組である。</p> <p>・「おたる地域子ども教室」でも、子ども達が運動する機会を増やしてあげたい。</p> <p>・専門的な方を外部講師とした体育の授業をもっと行ってはどうか。</p>				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	家庭学習時間「学年×10分+10分」の達成率70%以上	C	児童アンケートで「普段お家で1日にどのくらいの時間、宿題や家庭学習に取り組んでいますか」で「学年×10分+10分」の達成率は14.6%であった。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を行っている・どちらかといえば行っている」と回答する保護者90%以上	B	保護者アンケート「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を行っている」で肯定的回答が88.3%であった。	◎
改善方針		<p>○家庭学習の充実に向けて、家庭学習の手引きを見直すとともに、PTAと連携した取組を行っていく。</p> <p>○小中一貫を基盤とした家庭学習強化週間を設定する。</p> <p>○望洋台地区CS導入を受けて、より一層地域と連携・協働した取組を行っていく。</p>				
学校関係者評価委員による意見		<p>・家庭学習の仕方や課題を保護者としてしっかり共有し、学校と家庭の役割を明確にした方がよい。</p> <p>・地域と連携し、放課後など「ふれあいセンター」などを活用して子ども達が学習する場を提供してみてもどうか。</p>				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中互いの公開研究会への参加100%	A	日課を変更し、互いの公開研究会に全職員が参加した。	◎
		教育環境の整備・充実	教育環境点検を年3回以上実施	A	年度初めと夏季休業中及び冬季休業中の計3回実施した。	◎
		教職員の資質・能力の向上	人事評価シートに「スキルアップ」に関する自己目標設定100%	A	人事評価シートの学校設定目標に「スキルアップ」に関する自己目標を全職員に記入させた。	◎
		学校運営の改善	「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたる・どちらかといえばあたる」と回答する教職員80%以上	A	教職員アンケート「あなたは、チームでクリエイティブな(業務の効率化等の働き方改革を意識して)仕事をしている」で肯定的回答が93.8%であった。	◎
		学校安全教育の充実	引き取り訓練年1回実施	A	9月に引き渡し訓練を実施した。	◎
改善方針		<p>○教育DXを推進し、働き方を見直し、改善、変革していく。</p> <p>○能登半島地震を受け、地域の防災力を高めるために、地域との合同防災訓練を実施する。</p>				
学校関係者評価委員による意見		<p>・小中一貫では、望洋台小学校の取組が望洋台中学校へと接続できるよう連携をしっかりとしてほしい。</p> <p>・地域との合同防災訓練はぜひ実施してほしい。小樽市や消防なども連携し、発電機を動かしたり、段ボールベッドを組み立てたり等の体験もできるとよい。また、訓練を行って課題もあると思うので、改善しながら継続して行うべきである。</p>				
社会教育に関連する目標(目標6~8)		樽っ子サポート事業や地域子ども教室など、地域で活躍する方々による学習機会を年2回以上設定・実施	A	樽っ子学校サポート事業を活用し、夏季休業と冬季休業で学習会をそれぞれ2回実施した。また、6月から地域子ども教室を再開した。	◎	
改善方針		<p>○地域の方々がそれぞれ持っている特性や培ってきた知識・経験を生かして活動する「おたる地域子ども教室」を活用して、子どもの居場所づくりを推進する。</p>				
学校関係者評価委員による意見		<p>・おたる地域子ども教室のボランティアを増やすことが課題である。ボランティアが増えれば運動以外にもさまざまな子どものニーズに対応した取組が可能である。</p>				